

3-4.制限行為能力

3-4-1.「能力」という言葉 ××能力がある = ××ができる

権利能力	権利を持ったり，義務を負ったりできる能力 ※これがないと民法の登場人物になれないのが原則 ※始まりは「出生」。終わりは「死亡」
意思能力	自己の行為の結果を弁識する能力→ 意思能力のない者の行為は無効 ※民法上，何をするにも最低限必要
行為能力	単独で有効に法律行為（契約など）をすることのできる能力 →行為能力がなければ，ひとりで契約などができない → 制限行為能力者 （行為能力が不十分な者）の行為は 取消せる のが原則

☆「無効」≠「取消せる（取消すことができる）」☆

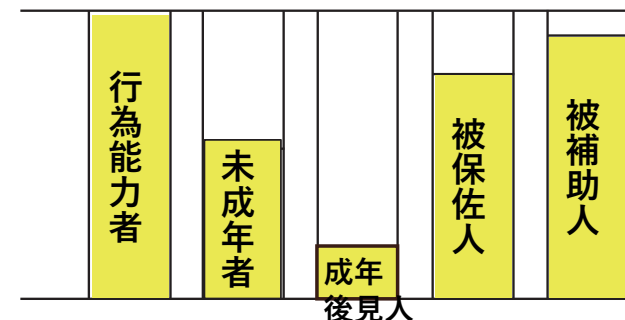
無効 × **初めから効力が無い**

取消す！ 無効 × 初めに遡って無効になる

取消せる △ **一応有効**

追認する！ 有効 ○ 初めに遡って有効に確定する

3-4.制限行為能力



3-4-2.制限行為能力者の種類・違い

本人の名称	内容	保護者	制限行為能力者が1人でした行為の効力
未成年者	18歳未満	親権者 未成年後見人	原則：取消せる 例外：保護者の同意がある場合 単に権利を得たり義務を免れる行為 処分を許された財産の処分 許可を受けた営業に関する行為
成年被後見人	判断能力を 欠くのが常態 + 家裁の審判	成年後見人	原則：取消せる 例外：日常生活に関する行為
被保佐人	判断能力が 著しく不十分 + 家裁の審判	保佐人	原則：取消せない 例外：重要な財産に関する行為
被補助人	判断能力が 不十分 + 家裁の審判	補助人	原則：取消せない 例外：申立ての範囲内の行為